

思いをもって音楽表現を工夫する児童の育成

～知覚と感受を結び付け、思いを伝え合う活動を通して～

特別研修員 音楽 飯山可奈子（小学校教諭）

児童の実態

- ・音楽表現をすることは好きだが、その表現に思いを持っている児童が少ない。
- ・体の動きや演奏に夢中になるあまり、拍の流れを意識できなかつたり、互いの演奏に耳を傾けられなかつたりする。
- ・思いを言葉で表現することが苦手な児童が多い。



♪音楽のもと

手立て① 知覚と感受を結び付ける問い掛けの工夫

♪問い掛けの工夫

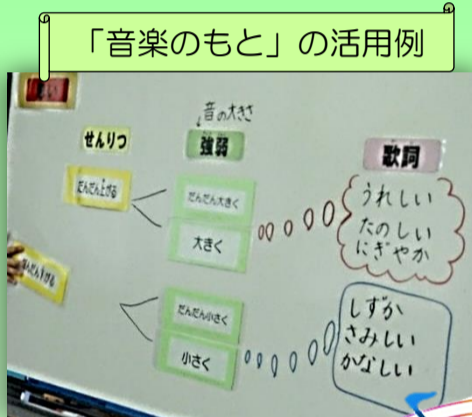


思いをもつために、「音楽のもと（※）」を使って音楽表現を工夫できるようにしました。既習事項の確認にも役立ちました。

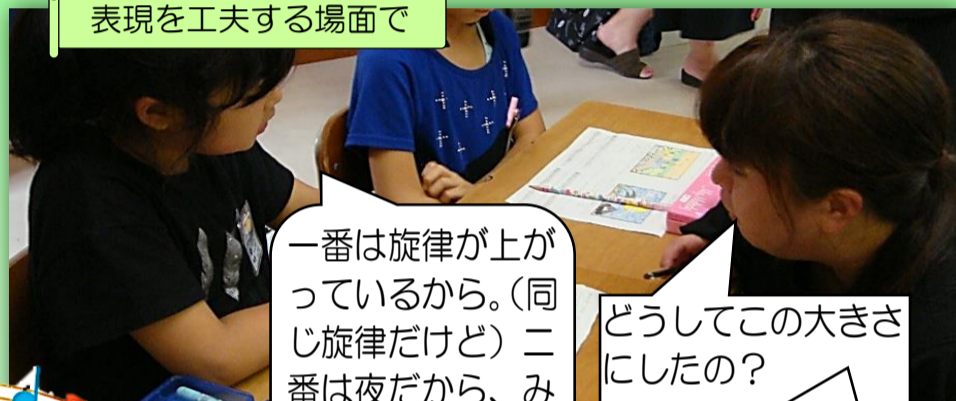


なぜそのような表現にしようと思ったのかを問うことで、知覚と感受を結び付けました。また、表現したことを教師が価値付けました。

「音楽のもと」			
リズム	音色	速度	強弱
8分休符	かたい音	ほんまのくり	弱い
短い音	ゆるやかな音	おそい	強い
長い音	せんりつ	ほんまはやく	ほんま大きく
4分休符	山にのっている	はやい	大きく
2分休符	ほんま上がる		ほんま小さく
ほんまに降り	ほんま下がる		小さく
ほんまの降り	思い	思い	歌詞



表現を工夫する場面で



一番は旋律が上がっているから。(同じ旋律だけど) 二番は夜だから、みんなねちゃった～っていう風にしたかったから小さくしたの。

どうしてこの大きさにしたの？
確かに小さくすると寝ちゃった感じがするね。(価値付け)

※「音楽のもと」とは、音楽を形づくっている要素を児童に分かりやすい言葉に直したものです。

目指す児童像 思いをもって 音楽表現を 工夫する児童

情景を色で表す



～ほんまにあそびたい、さみしい、またあそぼう

しずか、くらい、風がしずか

強弱を図形で表す

ぜんたいてきな音の大きさ 大きい (中くらい) 小さい



言葉で説明をするための助けとなるように、強弱を図形を使って表しました。また、曲の様子を捉えるために情景を色で表しました。



ペアや全体で自分の思いを伝え合いました。言葉のやりとりだけでなく、まねをして表現し、聴き合うなど、音からの実感を伴えるようにしました。

ここの強弱同じだね。歌詞「みな帰ろ」って書いてあるから、誘う感じで大きくしたんだよ。

旋律が上がっているから大きくしたんだよ。強弱は同じなのに理由は違うんだね。
～♪歌ってみる♪～

♪思いの可視化

手立て② 思いを伝え合う活動の工夫

♪意見交流の工夫

成果（○）と課題（●）

- 知覚と感受を結び付ける問い掛けを続けることで、思いをもって自ら音楽表現を工夫しようとする児童が増えた。
- 思いを伝え合う場面では、言葉のやりとりだけでなく音を聴くことによって、より実感を伴うことができた。
- 思いをもって工夫することと、技能を向上させることは今後も同時に進めていく必要がある。